

63—R 009

わが国におけるシステム監査の現状

——システム監査普及状況調査結果——

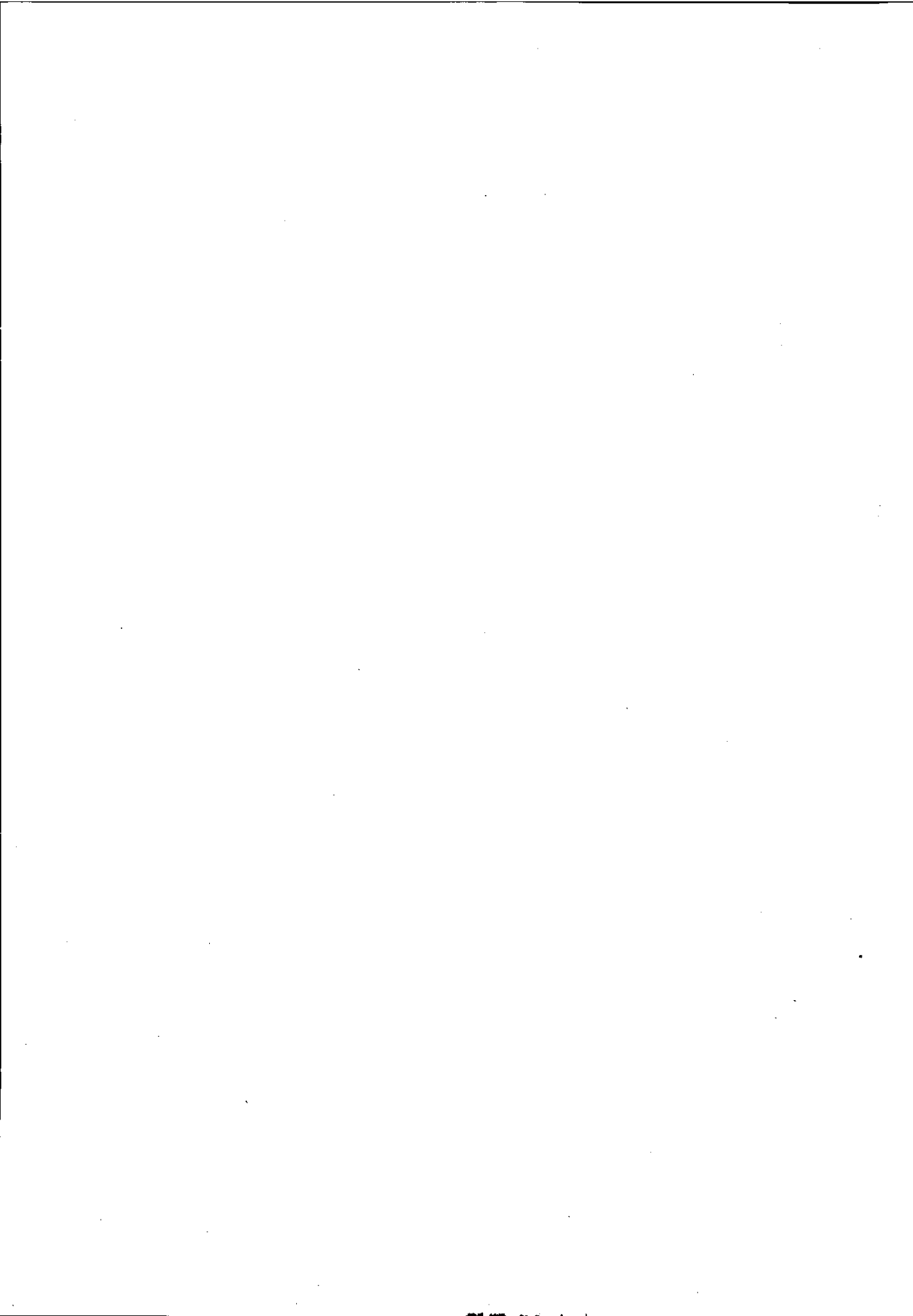
平成元年3月

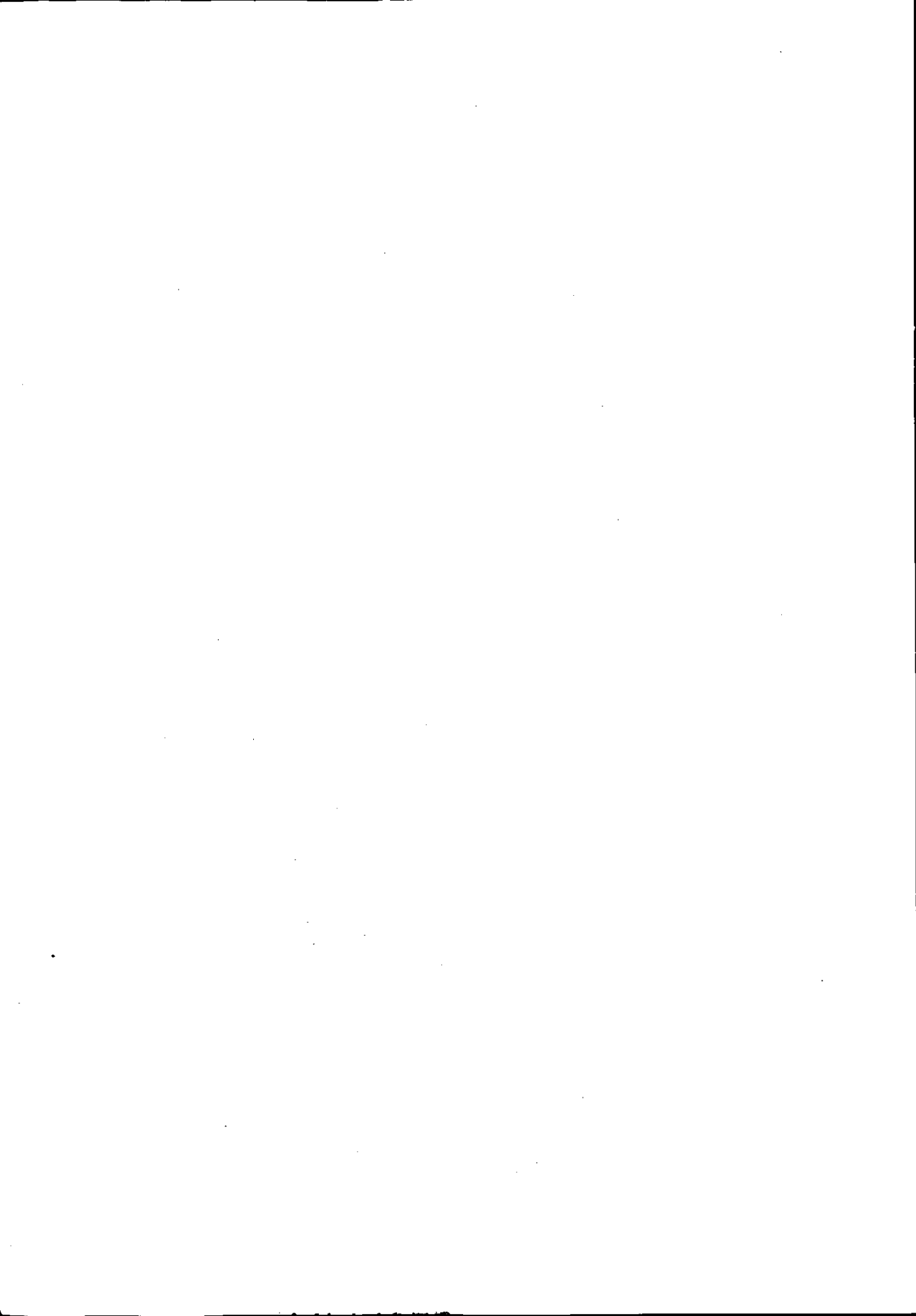
財団法人 日本情報処理開発協会



EC 30
4 29

この報告書は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である機械工業振興資金の補助を受けて、昭和63年度に実施した「情報処理に関する普及促進」の一環としてとりまとめたものであります。



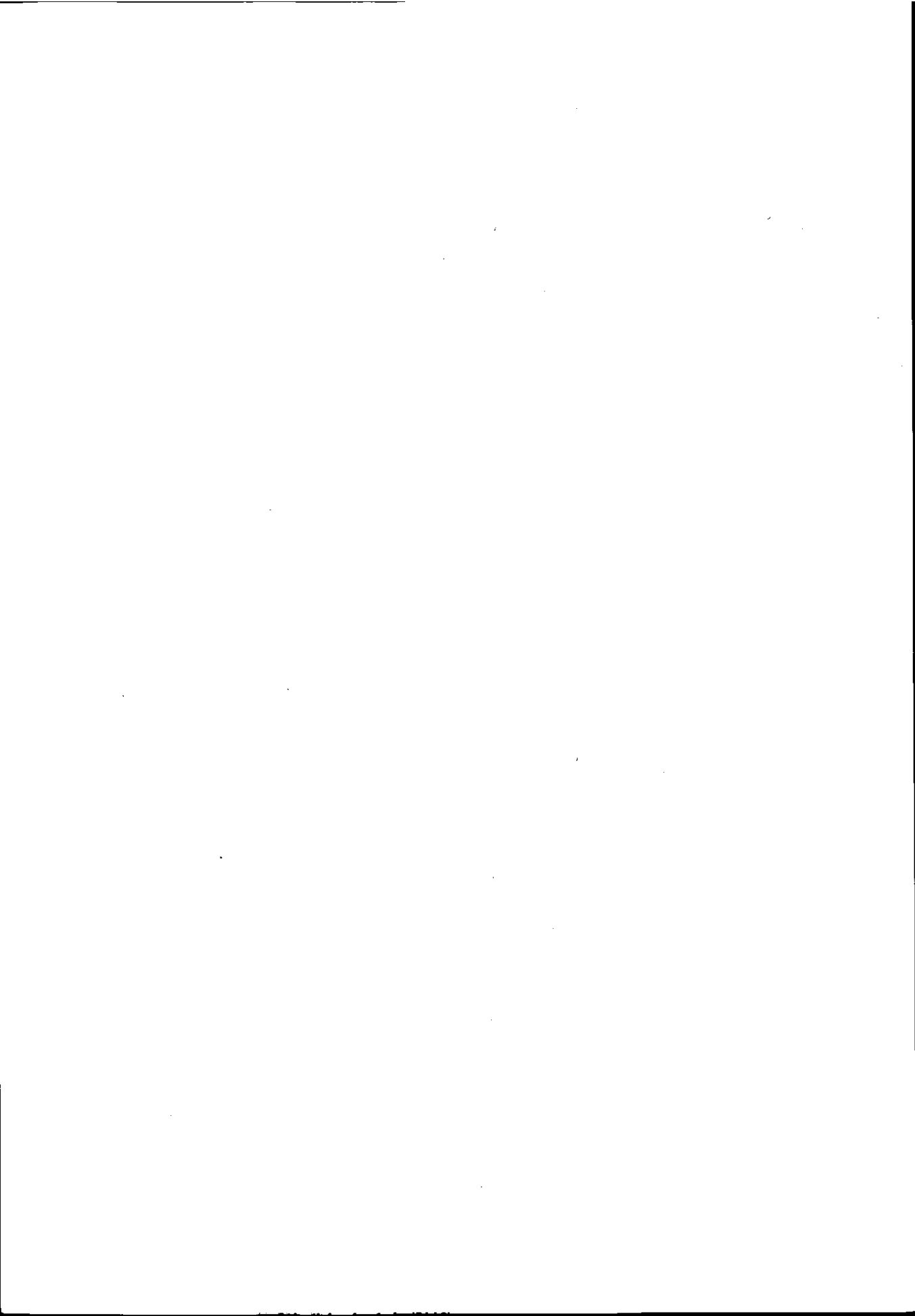


序

わが国におけるシステム監査の普及状況を把握するため、「システム監査普及状況調査」を実施した。今回の調査は、監査部門と情報システム部門の双方に対して実施し、その傾向を把握することに努めた。本調査結果が、システム監査推進の一助となれば幸である。

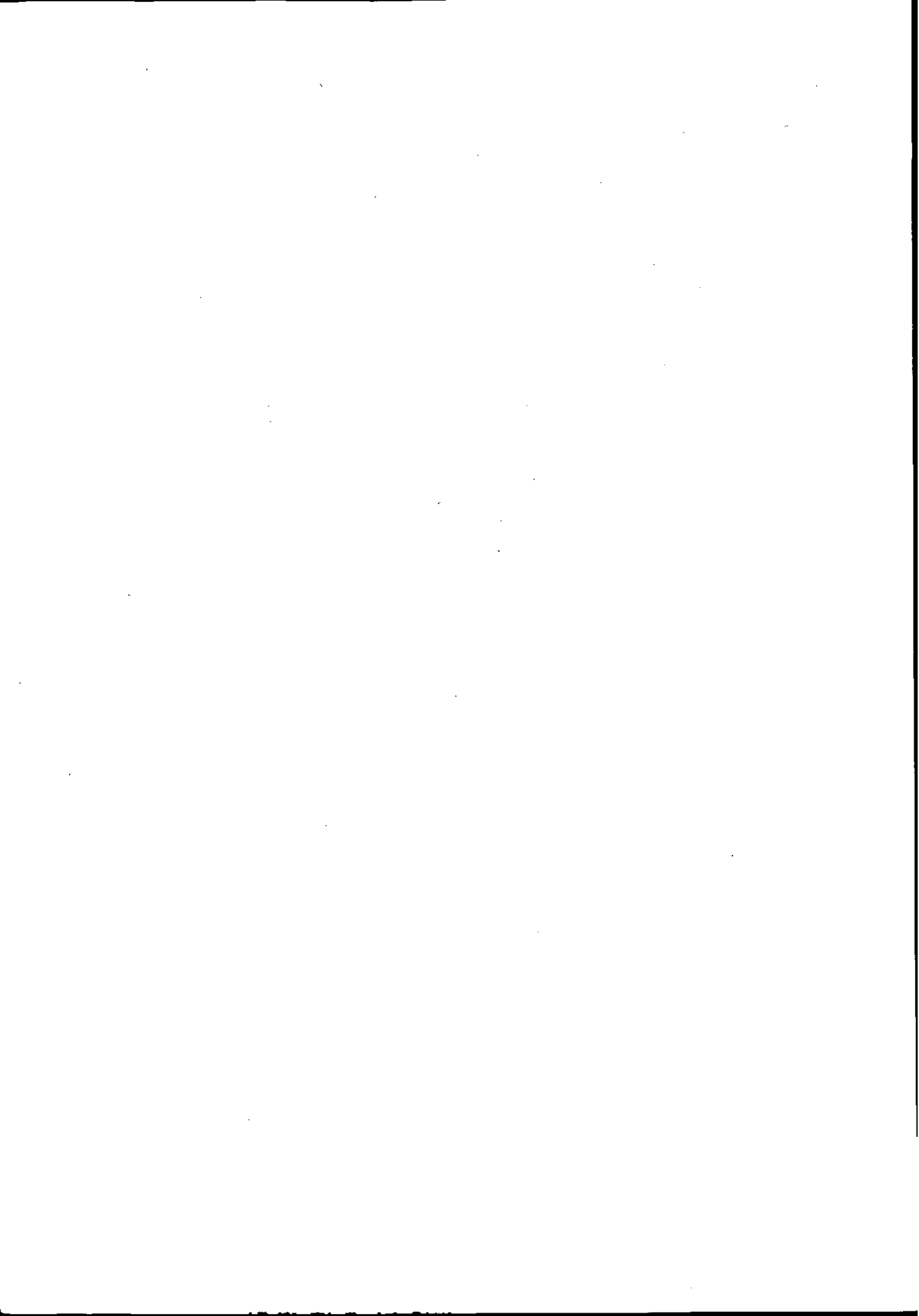
平成元年3月

財団法人 日本情報処理開発協会

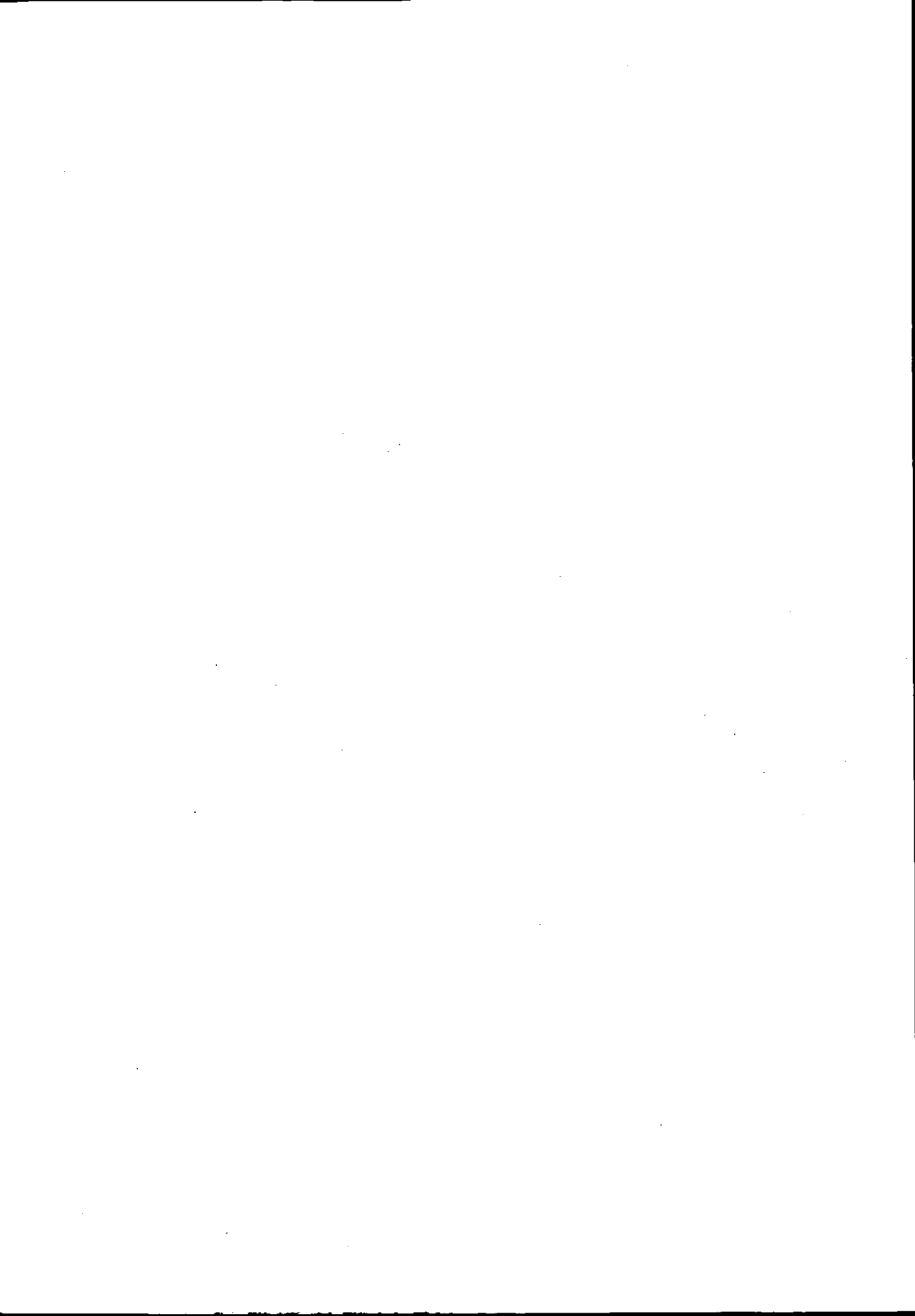


目 次

1. 調査の概要	1
2. システム監査の普及状況(概要)	7
2.1 監査部門対象調査の結果	7
2.2 被監査部門対象調査の結果	10
3. 「システム監査普及状況調査」集計結果	17
3.1 監査部門対象	17
3.2 被監査部門対象	26



1. 調査の概要



1. 調査の概要

1.1 調査の目的

本調査は、わが国におけるシステム監査の普及状況を、監査部門と被監査部門（情報システム部門）の双方に対して調査し、現状と問題点を把握するとともに、今後のシステム監査の普及促進に役立てることを目的として実施したものである。

1.2 調査の対象

日本情報処理開発協会が毎年実施している「コンピュータ利用状況調査」の母集団 3,476 事業体を対象とした。

1.3 調査時期

調査票発送 昭和63年 9月26日

回収締切 昭和63年10月20日

1.4 回収状況

発 送 数	3,476
監査部門回収数	765 (回収率 22.0%)
被監査部門回収数	1,028 (回収率 29.6%)

1.5 回答事業体の平均従業員数

監査部門対象調査 3,388人

被監査部門対象調査 2,997人

1.6 調査項目

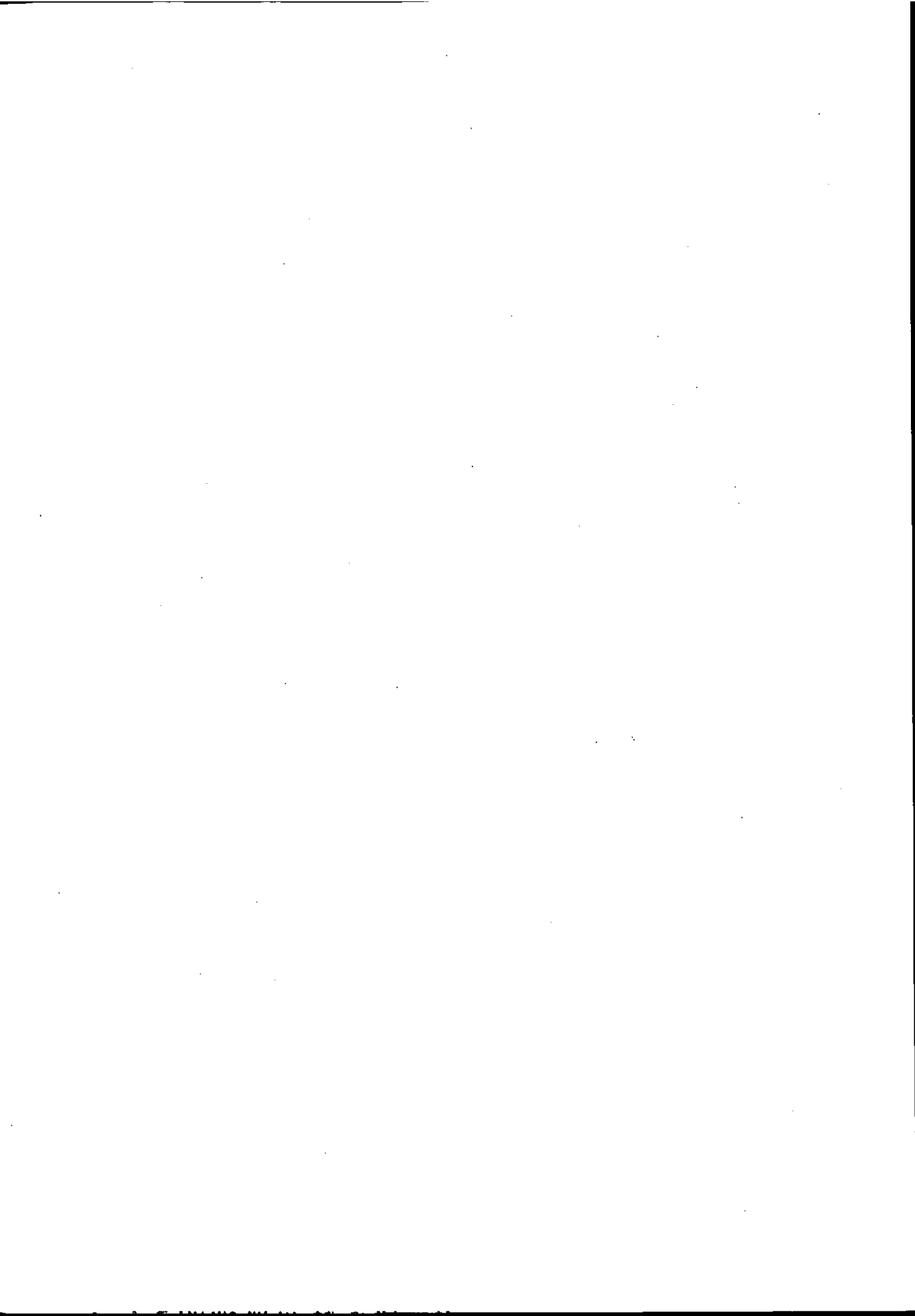
(1) 監査部門対象

- ① 監査体制
- ② システム監査実施事業体について
 - ・システム監査の体制

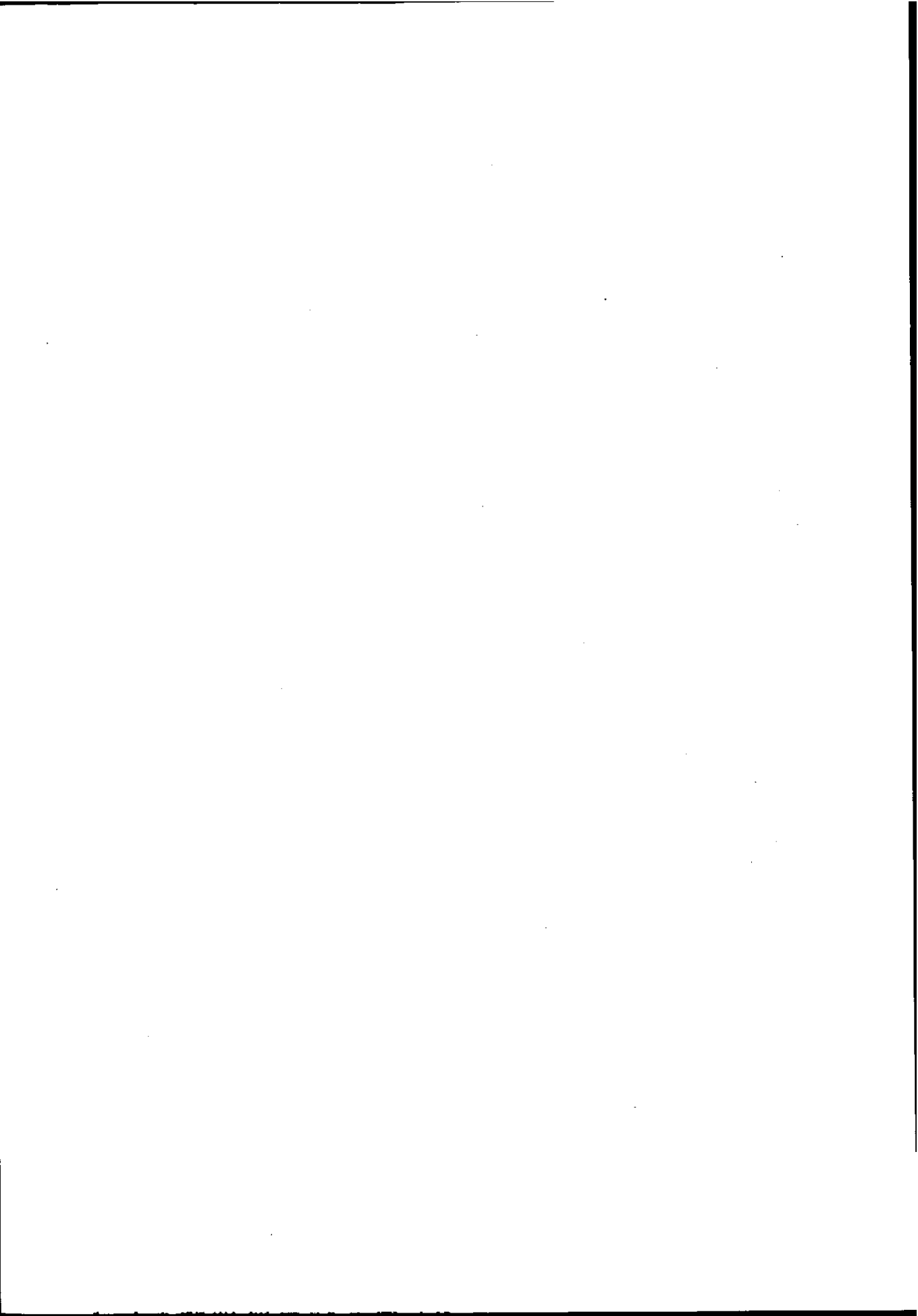
- ・システム監査人
 - ・システム監査の手順
 - ・システム監査の実施
 - ・システム監査結果の取り扱い
 - ・効果
- ③ システム監査未実施事業体について
- ・未実施の理由
 - ・実施可能性
- ④ システム監査の普及方策
- (2) 被監査部門対象
- ① リスク分析の実施
- ② システム監査実施事業体について
- ・実施体制
 - ・実施方法・手続き
 - ・監査報告書
 - ・実施効果
- ③ システム監査未実施事業体について
- ・未実施の理由
 - ・実施可能性

表1. 回収状況

業 種	監 査 部 門		被 監 査 部 門	
	回収数	平均従業員数	回収数	平均従業員数
農・林・漁・狩猟・水産養殖業	3	1,008	2	554
鉱業	0	0	0	0
建設業	26	3,803	35	3,393
食品製造業	19	1,132	27	1,289
繊維工業	14	2,313	20	1,736
紙・パルプ・紙加工品製造業	4	823	7	1,061
新聞業・出版業	4	825	7	1,861
印刷業・同関連産業	4	1,000	5	2,883
化学工業	39	2,533	50	2,554
石油製品製造業	2	2,369	2	1,463
窯業・土石製品製造業	9	2,146	14	1,670
鉄鋼業	7	20,017	16	11,473
非鉄金属製造業・金属製品製造業	23	1,312	25	1,516
一般機械器具製造業	25	2,128	35	1,072
電気機械器具製造業	46	8,682	65	8,375
輸送用機械器具製造業	29	7,471	39	5,984
精密機械器具製造業	15	2,417	21	2,414
その他の製造業	40	1,914	59	1,493
卸業・商社	76	1,048	92	940
小売業	28	1,188	42	1,467
金融業	93	2,126	128	1,735
証券業・商品取引業	4	574	4	574
生命保険業(含代理業・サービス業)	8	48,531	10	41,360
損害保険業(含代理業・サービス業)	6	6,015	7	5,468
不動産業	1	105	2	597
運輸・通信業	34	5,656	38	5,202
電力・ガス事業	10	9,594	11	8,793
放送業	6	342	10	471
広告・調査・情報提供サービス業	3	1,373	7	1,938
情報処理サービス業・ソフトウェア業	60	455	73	397
医療業	9	1,177	12	1,045
宗教法人	0	0	1	0
高校	5	65	5	65
大学	16	222	30	352
その他の教育機関	10	120	13	102
学術研究機関	2	341	2	341
法人団体・農協	23	771	26	646
その他のサービス業	14	596	23	595
政府	4	181	7	572
地方公共団体	44	5,409	56	5,489
合 計	765	3,388	1,028	2,997



2. システム監査の普及状況（概要）



2. システム監査の普及状況（要約）

2.1 監査部門対象調査結果の概要

(1) 監査体制について

① 内部監査部門を設置している組織体は51.7%であり、やっと半数を超えた程度にすぎない。

これも、システム監査を普及させる上での1つの障害になっているものと思われる。

② 内部監査人数は、1人が15.3%、2人以下でみると31.8%、3人以下をみると48.4%であり、半数近くが3人以下である。このことから、十分な内部監査体制がとられているとはいえない。

③ 内部監査人の年齢は、46才から55才までが中心層で59.1%を占めており、平均年齢は高い。

④ 内部監査部門を設置している組織体で、システム監査人を置いているのは9.9%と少い。人数は2人以下が63.8%を占めている。年齢は、41才から50才までが中心層で63.8%を占めており、内部監査人全体の年齢層より一世代若いといえることができる。

⑤ システム監査人の所属部署は、内部監査部門が69.7%、情報システム部門が21.1%、その他が9.2%となっている。このうち、情報システム部門所属のシステム監査人が20%を超えている点が、監査人の独立性との関連で問題点として指摘されよう。

(2) システム監査の実施体制について

① システム監査規定を定めているのは27.6%であり、システム監査の実施に関してルール化が図られているとはいえない状況である。

② システム監査の実施方式は、内部監査部門型が72.4%と圧倒的に多い。しかしながら、情報システム部門自身で実施する部門監査型も17.1%あり、独立性の確保という観点から留意する必要がある。

また、コンサルタント委託型も10.5%あることが注目される。

③ システム監査の実施体制上の問題点は、システム監査人の不足が53.4%と過

半数を占めている。まだまだ、システム監査人が得られない、という状況が続いていることを物語っている。

④ システム監査は誰れが実施するのが効果的かについては、次の監査主体が上位を占めている。

- ・内部の監査人 47.7%
- ・システム監査技術者試験の合格者 17.6%
- ・外部のシステム監査コンサルタント 15.0%

⑤ システム監査の実施過程で最も充実させなければならないのは、現地調査が29.8%、事前調査が25.8%となっている。

(3) システム監査人について

① システム監査人の必要人数は、2人が32.6%、3人が27.4%と、両者で60%を占めている。これは、実際のシステム監査人数が1人ないし2人で60%以上を占めていることと関連して考えてみると、一般的にシステム監査人数の不足は1人と想定してもよいことになる。

② システム監査人に不足している知識・能力として過半数が指摘しているのは、情報システムの知識57.0%と、業務知識の55.6%である。

③ システム監査人の教育としては、外部セミナーの利用が57.5%と圧倒的に多く、次いでOJTの35.8%と続いている。

(4) システム監査の手順について

① システム監査基本(年度)計画書を策定しているのは53.3%であり、まだ低い。少なくとも、システム監査を組織的に実施する以上、基本計画の立案は必要である。

② システム監査の実施にあたっては、89.9%が事前に被監査部門へ通知している。その期間は、1か月以上前が36.6%、1週間以上前が35.9%である。これは、一般的に妥当な線であると思われる。

(5) システム監査の実施について

① システム監査の実施は、運用段階では95.3%、開発段階では43.3%、企画段階では29.3%である。システム監査は、通常、運用段階から着手し、開発段階・企画段階へと進めていくため、現段階ではこのような数字になるであろうと理解できる。

- ② システム監査の着眼点としては、開発段階では信頼性(62.5%)、運用段階では安全性(78.8%)、信頼性(70.1%)などが重視されている。
- ③ 信頼性、安全性、効率性についての意識は次のとおりであり、検討の余地があるといえる。

・十分だと思う ・改善の余地があると思う ・高めるために
 ・まあまあだと思う

・信頼性	55.2%	91.1%	67.1%
・安全性	61.0%	87.7%	66.2%
・効率性	38.6%	89.7%	69.7%

- ④ システム監査人が、自社の情報システムを総合的に見た場合、十分満足しているのはわずか0.7%にすぎない。満足しているというのも34.7%あるが、多少不満も同数となっている点に留意しなければならない。
- ⑤ システム監査で使用されたことのある技法は、テストデータ法が53.4%で圧倒的に多く、次いで監査プログラムが23.3%と続いている。
- ⑥ システム監査においてチェックリストを利用しているのは77.7%と多い。利用しているうちの73.7%は、独自のチェックリストを作成しているとしている点が注目される。
- (6) システム監査結果の取扱いについて
- ① 監査報告書を作成する前に、監査結果について被監査部門と講評会を開催しているのは82.7%である。
- ② 監査報告書の提出先は、最高経営者が52.7%、担当役員が24.0%、最高意思決定機関が11.3%となっている。
- ③ 監査報告書の写は、被監査部門へは86.7%が、監査役へは76.4%が配布されている。しかし、会計監査人に対して配布しているのは13.8%と少い。ただし、要請があれば配布するとしているのも37.2%ある。
- (7) システム監査の効果について
- ① システム監査の実施で最も効果があがっていると思われるのは、信頼性向上の分野が43.3%、安全性向上の分野が41.8%であり、効率性向上の分野は14.9%と低い。
- ② また、情報化の影の分野に対して効果的と思われるのは、ヒューマンエラー

防止対策が47.6%，事故・災害防止対策が29.9%，コンピュータ犯罪防止対策が20.4%などとなっている。

(8) システム監査未実施事業体について

- ① システム監査の必要性を認識しているのは、55.4%と過半数に達しているものの決して満足できる数字ではない。
- ② 現在システム監査の導入を計画しているのは8.1%，2～3年以内に導入を予定しているのが12.7%，合わせても20.8%と少い。

(9) システム監査の普及定着策について

- ① システム監査を実施するため、あるいは効果を高めるために、まず整備すべきこととしては、システム監査人の養成が64.0%と多く。次にシステム監査規定の作成が44.6%とつづいている。
- ② システム監査を普及定着させるための方策として、社内におけるシステム監査教育の実施が56.1%，システム監査基準の細則の策定が50.5%，トップマネジメントの積極的な姿勢が49.3%などと指摘されている。

2.2 被監査部門対象調査結果の概要

(1) リスク分析について

- ① 情報システムの安全対策について、担当者グループが明確に定められているのは23.0%にすぎない。
- ② 情報システム部門が、現実的なリスクとしてとらえている主なものは次のとおりである。

・システムダウン	70.3%
・不正確なデータによる信頼性の低下	47.2%
・ファイルの破壊や改ざん	46.8%
・処理の遅れによるサービス低下	44.8%
・機密漏洩	43.2%

- ③ リスク分析を実施したことがあるのは13.7%（140事業体）と少い。しかも、損害額の算定をしているのは、そのうちの16.4%（23事業体）にすぎない。さらに、損害額の算定基準を定めているのは、そのうちの半数に満たない43.5%（10事業体）でしかない。

- ④ リスク分析があまり実施されていない最大の理由は、確立された手法がない(78.0%) ことである。

(2) システム監査の実施について

- ① システム監査人の知識や能力に十分満足しているのはわずかに8.8%であり、過半数(51.6%)がもっと身につけるべきだとしている。身につけるべき内容は、全体的にレベルアップが39.4%と最も多く、次いでコンピュータ技術の31.7%となっている。

- ② システム監査の実施体制に問題点があったとするのは39.5%であり、その主な理由は次のとおりである。

・システム監査人のコンピュータ知識不足	56.2%
・システム監査人の業務知識不足	49.5%
・システム監査人の権限・役割分担が不明確	36.2%
・システム監査の目的が不明瞭	34.3%

- ③ システム監査は誰れが実施するのが効果的かについては、内部の監査人が36.4%、外部のシステム監査コンサルタントが33.5%、システム監査試験合格者が16.4%などとなっている。

(3) 実施方法・手続きについて

- ① 企画・開発・運用各段階での監査の着眼点として重視されている上位3項目は次のとおりである。

・企画段階：安全性(53.8%) 信頼性(46.2%) 採算性(42.3%)
・開発段階：信頼性(63.1%) 安全性(35.7%) 適時性(35.3%)
・運用段階：安全性(79.4%) 信頼性(63.2%) 機密性(60.7%)

- ② システム監査を効率的に実施するために重要なことは、実施手続きの標準化(32.1%)、情報システム部門の協力(19.3%)、システム監査人の能力アップ(19.0%)などである。

- ③ システム監査の結果について、情報システム部門との間で講評会を行っているのは、57.4%(十分検討を行った19.3%、一応検討は行った38.1%)と過半数を超えてはいるが、結果を伝達されただけが39.6%にも達している。監査部門対象の調査では、82.7%が講評会を実施していると回答しているが、このギャップは監査人と被監査部門との意思疎通が十分でないことを示していると思わ

れる。

- ④ システム監査の実施方法については、妥当と思うのが48.1%ある一方、妥当とは思えないという意見が25.9%に及んでいる。被監査部門の意見ではあるが、留意する必要がある。
- ⑤ 被監査部門は、システム監査を受けた結果、システムを評価するには工数が足りないと感じている。もっと工数をかけるべきというのが43.1%で、妥当と思うの29.2%を大きく上回っている。
- ⑥ システム監査の実施は、現場に負荷を与えているが、業務に支障はきたしていない。負荷はそれほど大きくなかったが57.5%、負荷は大きかったが通常業務に支障をきたすほどではなかったのが40.0%で、両者で97.5%に達している。
- ⑦ 問題点としては、システム監査人へ提出すべき資料が整理されていなかったとする意見が62.5%と圧倒的に多い。これは、初期の段階ということを考慮すればしかたがないことで、いずれシステム監査の定着とともに減少していくものと思われる。

(3) システム監査報告書について

- ① 監査報告書で改善勧告を受けた例は77.9%に及んでいる。そのうち、改善勧告に従って実施したのが46.7%、一部実施したのが48.1%、実施していないのはわずかに5.2%にすぎない。
- ② 指摘事項や改善勧告については、的を得ている(7.1%)と妥当(49.2%)とで過半数を超えている。一方、全体として迫力に欠ける(21.7%)やシステム部門の状況が考慮されていない(15.7%)という意見も結構多いことなどは、システム監査人にとって反省材料となろう。

(4) 実施効果について

- ① システム監査実施の効果については、十分に効果があったのが11.0%、多少効果があったのが50.5%である。すなわち、被監査部門の61.5%が効果を認めていることになる。
- ② システム監査の実施で最も改善が図れた分野は、運用業務(65.5%)という意見が圧倒的に多い。
- ③ システム監査の充実によって最も効果があがった分野は、ヒューマンエラ

ー対策67.3%，障害対策41.8%，コンピュータ犯罪対策25.5%などである。

- ④ システム監査の具体的な効果としては、担当者がリスクを考慮しながら業務を実行するようになった（42.6%）や、信頼性向上対策のレベルが明らかになった（41.0%）などが目立っている。
- ⑤ システム監査の具体的な問題点としては、リスクの評価が十分に行われなかった（44.4%）、業務分析が不十分であった（33.5%）、効果の判断材料がみつけない（33.5%）などがあげられている。

(5) システム監査未実施事業体について

- ① システム監査を実施していない事業体のうち、その必要性を認めているのは44.2%である。認めていないとするのは11.3%である。しかし、残りの44.5%はどちらともいえないとしており、まだ普及啓蒙活動が不足していることをうかがわせる。
- ② システム監査が実施されていない理由としては、監査よりシステム化推進に力点がある（67.9%）、監査担当者の確保が難しい（50.7%）、実施のための組織風土が十分育っていない（46.2%）、監査の方法・制度・手続きなどが十分でない（44.6%）等があげられている。これらは、情報システム部門の率直な意見ではあるが、監査に対する認識の問題もあるように思われる。
- ③ システム監査の導入については、導入を計画中が3.9%、2～3年以内に導入の予定が11.2%、合わせて15.1%がシステム監査の導入を考えているが、残りは現在のところ導入を考えていない。

この点については、監査部門対象の調査でも、20.8%が導入を予定しているにとどまり、システム監査の普及にはまだ時間がかかることを示している。また、早急に普及をはかるとすれば、これまでとは異なる何らかの方策を必要としているといえよう。

- ④ どのような観点からシステム監査を進めるのが望ましいかについては、信頼性、安全性をあげる声が強い。

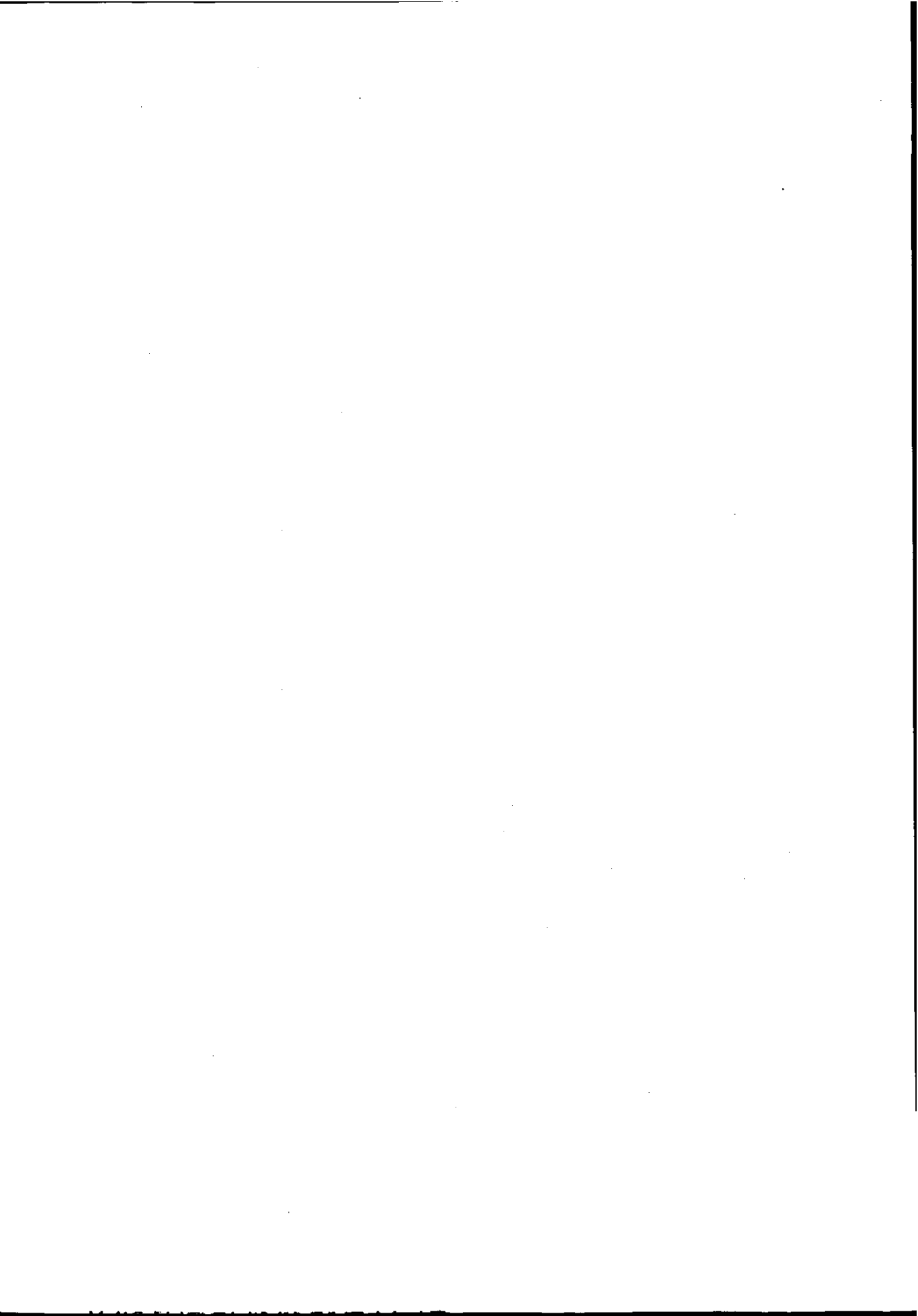
	(被監査部門)	(監査部門)
・信頼性	73.5%	64.8%
・安全性	60.8%	69.4%
・有効性	40.2%	34.3%

- ・採算性 37.3% 28.7%
- ・機密性 35.3% 39.8%

⑤ また、どの段階の監査を要望するかについては、運用段階が最も多いが、開発段階より企画段階の方をより重視している点が注目される。

	(被監査部門)	(監査部門)
・運用段階	49.5%	60.7%
・企画段階	31.9%	35.5%
・開発段階	23.5%	29.4%

3. 「システム監査普及状況調査」集計結果



3. 「システム監査普及状況調査」

3.1 監査部門対象

I 貴社の監査体制についてお答え下さい

Q1. 貴社には内部監査部門（監査部、考査部、検査部、または監査委員会等）が設置されていますか。

1	いる	394件	51.7%
2	いない	368	48.3
	計	762	100.0

Q2. 2-1. 内部監査人は何人いますか。（Q1の「1」について）
（内部監査部門にシステム監査人がある場合はそれも含めて下さい。）

1人	58	15.3
2	63	16.6
3	63	16.6
4	41	10.8
5	29	7.6
6～10	52	13.7
11～15	25	6.6
16～20	17	4.5
21～	32	8.4
計	380	100.0

2-2. 内部監査人は平均何才ですか。
（Q1の「1」について）

30才	3	0.8
31～35	12	3.3
36～40	33	9.1
41～45	62	17.0
46～50	105	28.8
51～55	110	30.2
56～60	24	6.6
61～65	14	3.8
66～	1	0.3
計	364	100.0

Q3. 貴社にはシステム監査人がいますか。

1	いる	73	9.9
2	いない	667	90.1
	計	740	100.0

Q4. 4-1. システム監査人は何人いますか。（Q3の「1」について）

1人	26	37.7
2	18	26.1
3	8	11.6
4	8	11.6
5	1	1.4
6～10	7	10.1
11～15	1	1.4
16～20	0	0.0
21～	0	0.0
計	69	100.0

4-2. システム監査人は平均何才ですか。（Q3の「1」について）

30才	2	2.9
31～35	2	2.9
36～40	9	13.0
41～45	21	30.4
46～50	23	33.3
51～55	10	14.5
56～60	1	1.4
61～65	1	1.4
66～	0	0.0
計	69	100.0

4-3. システム監査人を置かれたのはいつですか。（Q3の「1」について）

～55年	11	15.9
56	1	1.4
57	3	4.3
58	5	7.2
59	8	11.6
60	10	14.5
61	13	18.8
62	9	13.0
63	9	13.0
計	69	100.0

4-4. システム監査人はどこに所属していますか。
(Q3の「1」について)

1	内部監査部門	53	69.7
2	情報システム部門	16	21.1
3	その他	7	9.2
計		76	100.0

Q5. 貴社ではシステム監査を実施していますか。

1	いる	154	20.4
2	いない	601	79.6
計		755	100.0

II システム監査の実施についてお答え下さい (Q5の「1」について)

II-1 (貴社のシステム監査体制について)

Q6. システム監査規定が定められていますか。

1	定められている	42	27.6
2	他の社内規定でシステム監査の実施が明記されている	29	19.1
3	定められていない	81	53.3
計		152	100.0

Q7. システム監査は次のどの方式で実施していますか。(多重回答)

1	内部監査部門型(監査部、考査部等が実施する)	110	72.4
2	コンサルタント委託型(外部のシステム監査コンサルタントへ委託する)	16	10.5
3	部門監査型(情報システム部門で実施する)	26	17.1
4	指名方式(トップから指名された者がシステム監査人となり実施する)	4	2.6
5	委員会方式(システム監査委員会を設置して実施する)	12	7.9
6	チームアプローチ(システム監査プロジェクトチームを編成して実施する)	14	9.2
7	その他	17	11.2
計		152	—

Q8. システム監査の実施体制についての問題点は何ですか。最も問題だと思われるものを1つ選んで下さい。

1	システム監査人が不足している	79	53.4
2	システム監査規定が整備されていない	17	11.5
3	システム監査チェックリストが整備されていない	23	15.5
4	利用できるシステム監査技法が少ない	20	13.5
5	その他	9	6.1
計		148	100.0

Q9. システム監査は誰が実施するのが効果的だと思いますか。最も効果的と思うものを1つ選んで下さい。
(貴社の実態とは別にお答え下さい。)

1	監査役(団体等は監事、自治体は監査委員)	8	5.2
2	内部の監査人	73	47.7
3	公認会計士	10	6.5
4	情報処理システム監査技術者試験の合格者	27	17.6
5	情報システム部門の要員	10	6.5
6	外部のシステム監査コンサルタント	23	15.0
7	その他	2	1.3
計		153	100.0

Q10. システム監査の実施過程においては、どのような点を充実させなければならないと思いますか。最も重要だと思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査計画	13	8.6
2	事前調査	39	25.8
3	実地調査	45	29.8
4	改善勧告	23	15.2
5	報告会	3	2.0
6	チェックリスト	25	16.6
7	その他	3	2.0
計		151	100.0

II-2 (貴社のシステム監査人について)

Q11. システム監査人は何人位必要だと思いますか。

1人	15	11.1
2	44	32.6
3	37	27.4
4	15	11.1
5	16	11.9
6～10	5	3.7
11～15	1	0.7
16～20	1	0.7
21～	1	0.7
計	135	100.0

Q12. システム監査人に不足していると思われる知識・能力は何ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	業務知識	75	55.6
2	法律知識	25	18.5
3	監査知識	50	37.0
4	情報システムの知識	77	57.0
5	インタビュー能力	11	8.1
6	分析能力	29	21.5
7	判断能力	21	15.6
8	報告書作成能力	5	3.7
9	その他	7	5.2
計		135	—

Q13. システム監査人に対してどのような教育方法をとっていますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	外部セミナーを利用	77	57.5
2	社内教育	19	14.2
3	OJT	48	35.8
4	通信教育	16	11.9
5	とくに教育は実施していない	30	26.9
6	その他	15	11.2
計		134	—

II-3 (貴社のシステム監査の手順について)

Q14. システム監査の対象はどのように決定していますか。

1	トップマネジメントの要求に基づいて決定	13	8.8
2	監査役(団体等は監事、自治体は監査委員)の要求に基づいて決定	23	15.5
3	内部監査部門長の判断に基づいて決定	63	42.6
4	システム監査人の独自の判断で決定	29	19.6
5	その他	20	13.5
計		148	100.0

Q15. 監査テーマはどのように決定していますか。

1	トップマネジメントの要求に基づいて決定	10	6.8
2	監査役（団体等は監事、自治体は監査委員）の要求に基づいて決定	20	13.7
3	内部監査部門の判断で決定	69	47.3
4	システム監査人の独自の判断で決定	34	23.3
5	その他	13	8.9
計		146	100.0

Q16. システム監査基本（年度）計画書を策定していますか。

1	いる	80	53.3
2	いない	70	46.7
計		150	100.0

Q17. 基本（年度）計画書の最終承認者は誰ですか。（Q16の「1」について）

1	最高経営者（社長、理事長、首長等）	41	51.3
2	担当役員	18	22.5
3	監査役（団体等は監事、自治体は監査委員）	5	6.3
4	内部監査部門長	15	18.8
5	その他	1	1.3
計		80	100.0

Q18. システム監査を実施する場合、事前に被監査部門へ通知していますか。

1	いる	133	89.9
2	いない	15	10.1
計		148	100.0

Q19. 被監査部門への事前通知ほどの位前に行っていますか。（Q18の「1」について）

1	1週間以内	18	13.7
2	1週間以上前	47	35.9
3	1カ月以上前	48	36.6
4	2カ月以上前	12	9.2
5	その他	6	4.6
計		131	100.0

II-4（貴社のシステム監査実施について）

Q20. システム監査の実施は、情報システム開発サイクルのどの段階ですか。（多重回答）

1	企画段階	44	29.3
2	開発段階	65	43.3
3	運用段階	143	95.3
計		150	—

Q21. 企画段階の監査で重視されている着眼点を次の中から3つ以内でお選び下さい。（Q20の「1」について）

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	21	47.7
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	20	45.5
3	機密性（データの権限者以外への機密）	14	31.8
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	14	31.8
5	採算性（コスト面からの効率）	15	34.1
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	14	31.8
7	生産性（リソース面からの効率）	2	4.5
8	有効性（システム目標の達成度合）	20	45.5
計		44	—

Q22. 開発段階の監査で重視されている着眼点を次の中から3つ以内でお選び下さい。(Q20の「2」について)

1	安全性(システムの物理的安全性/不正防止)	30	46.9
2	信頼性(ハードウェア/ソフトウェアの正確さに基づく信頼性)	40	62.5
3	機密性(データの権限者以外への機密)	19	29.7
4	準拠性(法律、条例、規則等への準拠)	28	43.8
5	採算性(コスト面からの効率)	13	20.3
6	適時性(開発、導入、アウトプット作成等のタイミング)	12	18.8
7	生産性(リソース面からの効率)	14	21.9
8	有効性(システム目標の達成度合)	14	21.9
計		64	—

Q23. 運用段階の監査で重視されている着眼点を次の中から3つ以内でお選び下さい。(Q20の「3」について)

1	安全性(システムの物理的安全性/不正防止)	108	78.8
2	信頼性(ハードウェア/ソフトウェアの正確さに基づく信頼性)	96	70.1
3	機密性(データの権限者以外への機密)	74	54.0
4	準拠性(法律、条例、規則等への準拠)	47	34.3
5	採算性(コスト面からの効率)	19	13.9
6	適時性(開発、導入、アウトプット作成等のタイミング)	10	7.3
7	生産性(リソース面からの効率)	5	3.6
8	有効性(システム目標の達成度合)	28	20.4
計		137	—

Q24. 情報システムの信頼性は十分だと思いますか。

1	十分だと思う	7	4.8
2	まあまあだと思う	73	50.3
3	ふつうだと思う	41	28.3
4	多少不安に思う	14	9.7
5	不十分だと思う	9	6.2
6	わからない	1	0.7
計		145	100.0

Q25. 情報システムの信頼性を高めるために改善の余地があると思いますか。

1	思う	133	91.1
2	思わない	8	5.5
3	わからない	5	3.4
計		146	100.0

Q26. 情報システムの信頼性を高めるためにもっと投資すべきだと思いますか。

1	思う	98	67.1
2	思わない	34	23.3
3	わからない	14	9.6
計		146	100.0

Q27. 情報システムの安全性は十分だと思いますか。

1	十分だと思う	7	4.8
2	まあまあだと思う	82	56.2
3	ふつうだと思う	28	19.2
4	多少不安に思う	22	15.1
5	不十分だと思う	6	4.1
6	わからない	1	0.7
計		146	100.0

Q28. 情報システムの安全性を高めるために改善の余地があると思いますか。

1	思 う	128	87.7
2	思わない	9	6.2
3	わからない	9	6.2
計		146	100.0

Q30. 情報システムの効率性は十分だと思えますか。

1	十分だと思う	2	1.4
2	まあまあだと思う	54	37.2
3	ふつうだと思う	51	35.2
4	多少不安に思う	22	15.2
5	不十分だと思う	11	7.6
6	わからない	5	3.4
計		145	100.0

Q32. 情報システムの効率性を高めるためにもっと投資すべきだと思いますか。

1	思 う	101	69.7
2	思わない	23	15.9
3	わからない	21	14.5
計		145	100.0

Q34. システム監査技法で実際に使用したものがあれば、次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	テストデータ法	39	53.4
2	スナップショット法	5	6.8
3	トレーシング法	4	5.5
4	監査プログラム法	17	23.3
5	監査モジュール法	3	4.1
6	並行シュミレーション法	7	9.6
7	I T F法	8	11.0
8	コード比較法	3	4.1
9	その他	18	24.7
計		73	—

Q36. どのようなチェックリストを利用していますか。(Q35の「1」について)(多重回答)

1	既存のチェックリストをそのまま利用	10	8.8
2	既存のチェックリストを修正して利用	20	17.5
3	独自のチェックリストを作成している	84	73.7
4	その他	20	17.5
計		114	—

Q29. 情報システムの安全性を高めるためにもっと投資すべきだと思いますか。

1	思 う	96	66.2
2	思わない	31	21.4
3	わからない	18	12.4
計		145	100.0

Q31. 情報システムの効率性を高めるために改善の余地があると思えますか。

1	思 う	130	89.7
2	思わない	6	4.1
3	わからない	9	6.2
計		145	100.0

Q33. 貴社の情報システムは、総合的に見て満足できる状態ですか。

1	十分満足	1	0.7
2	満 足	52	34.7
3	なんともいえない	35	23.3
4	多少不満	52	34.7
5	大いに不満	9	6.0
6	わからない	1	0.7
計		150	100.0

Q35. システム監査においてチェックリストを利用していますか。

1	い る	115	77.7
2	いない	33	22.3
計		148	100.0

II-5 [貴社のシステム監査結果の取扱いについて]

Q37. 監査報告書を作成する前に、監査の結果について被監査部門と講評会等を開いて意見の交換をしていますか。

1	いる	124	82.7
2	いない	26	17.3
計		150	100.0

Q38. 監査報告書は誰に提出（報告書の宛先）していますか。

1	最高意思決定機関（取締役会、理事会、議会等）	17	11.3
2	最高経営者（社長、理事長、首長等）	79	52.7
3	担当役員	36	24.0
4	監査役（団体等は監事、自治体は監査委員）	6	4.0
5	内部監査部門長	6	4.0
6	その他	6	4.0
計		150	100.0

Q39. 監査報告書の写を被監査部門に配布していますか。

1	いる	130	86.7
2	いない	20	13.3
計		150	100.0

Q40. 監査報告書の写を監査役に配布していますか。

1	いる	110	76.4
2	いない	34	23.6
計		144	100.0

Q41. 監査報告書の写を会計監査人に配布していますか。

1	配布する	20	13.8
2	要請があれば配布する	54	37.2
3	見せていない	71	49.0
計		145	100.0

II-6 [貴社のシステム監査実施の効果について]

Q42. システム監査の実施で最も効果が上ったと思われる分野を次の中から1つ選んで下さい。

1	信頼性向上	61	43.3
2	安全性向上	59	41.8
3	効率性向上	21	14.9
計		141	100.0

Q43. 情報化の影の分野に対して、システム監査の実施が最も効果的だと思われるものを次の中から1つ選んで下さい。

1	コンピュータ犯罪防止対策	30	20.4
2	ヒューマンエラー防止対策	70	47.6
3	事故・災害防止対策	44	29.9
4	個人情報保護対策	3	2.0
計		147	100.0

III システム監査を実施していない事業体のみお答え下さい (Q5の「2」について)

III-1 [未実施の理由について]

Q44. 現在、システム監査の必要性を認識していますか。

1	いる	330	55.4
2	いない	52	8.7
3	どちらともいえない	214	35.9
計		596	100.0

Q45. システム監査を実施していない理由はどのような点ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	システム監査について、トップマネジメントの認識が欠如している	76	12.7
2	システム監査の実施のためのコンセンサス、組織風土が十分に育っていない	236	39.5
3	システム監査の実施よりもシステム化推進そのものに力点がある	352	58.9
4	システム監査を実施する担当者（部門）の確保が難しい	312	52.2
5	システム監査の方法、制度、手続きなどが十分でない	253	42.3
6	システム監査の効果が明確でない	83	13.9
7	その他	22	3.7
計		598	—

Q46. 必要性を認識していないのは、どのような理由ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。（Q44の「2」について）

1	従前からの内部監査部門および外部監査で十分である	3	13.0
2	情報システムの企画、開発における事前的な評価方法を導入しているので十分である	0	0.0
3	情報システム部門自体の運用管理体制の整備で十分である	6	26.1
4	情報システムにソフト的に組み込まれている信頼、安全、効率確保の機能で十分である	4	17.4
5	システム監査を必要とするほど情報システムの重要性が高くない	9	39.1
6	システム監査を必要とするほど情報システム利用のリスクがない	9	39.1
7	システム監査とは何かよくわからない	8	34.8
8	その他	2	8.7
計		23	—

III-2 [実施可能性について]

Q47. 今後、システム監査についてどのように対応されますか。

1	現在、システム監査の導入を計画中	45	8.1
2	2～3年以内には導入の予定	71	12.7
3	当面導入の予定はない	398	71.3
4	将来とも導入の予定はない	22	3.9
5	その他	22	3.9
計		558	100.0

Q48. どのような体制で進められる予定ですか。（Q47の「1」について）

1	内部監査部門型（監査部、考査部等が実施する）	52	52.0
2	コンサルタント委託型（外部のシステム監査コンサルタントへ委託する）	10	10.0
3	部門監査型（情報システム部門で実施する）	19	19.0
4	指名方式（トップから指名された者がシステム監査人となり実施する）	3	3.0
5	委員会方式（システム監査委員会を設置して実施する）	6	6.0
6	チームアプローチ（システム監査プロジェクトチームを編成して実施する）	9	9.0
7	その他	5	5.0
計		100	—

Q49. 上記の場合、特にどのような観点から監査を進められる予定ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。
(Q47の「1」、「2」について)

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	75	69.4
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	70	64.8
3	機密性（データの権限者以外への機密）	43	39.8
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	22	20.4
5	採算性（コスト面からの効率）	31	28.7
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	14	13.0
7	生産性（リソース面からの効率）	11	10.2
8	有効性（システム目標の達成度合）	37	34.3
計		108	—

Q50. システム開発ライフサイクルの中で、とくにどの段階の監査を計画（予定）または要望していますか。（多重回答）

1	企画段階	151	35.5
2	開発段階	125	29.4
3	運用段階	258	60.7
計		425	—

IV システム監査を普及定着させるための方策についてお答え下さい

Q51. システム監査を実施するため、あるいはシステム監査の効果を高めるため、まず整備することは何だと思えますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	システム監査規定の作成	296	44.6
2	情報システム部門要員の活用	140	21.1
3	内部監査部門（システム監査部門）の設置	213	32.1
4	システム監査人の任命	83	12.5
5	システム監査人の増員	49	7.4
6	監査結果に基づく実施の義務化	114	17.2
7	システム監査人の養成	425	64.0
8	トップの理解	206	31.0
9	その他	19	2.9
計		664	—

Q52. システム監査を普及・定着させるためにはどのようにすればよいと思えますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	大学教育におけるシステム監査教育の実施	49	7.4
2	社内におけるシステム監査教育の実施	370	56.1
3	システム監査基準の細則の策定	333	50.5
4	優秀システム監査実施事業所の発表	36	5.5
5	システム監査コンサルティング事業の普及	166	25.2
6	立法化	160	24.3
7	トップマネジメントの積極的な姿勢	325	49.3
8	その他	14	2.1
計		659	—

3.2 被監査部門対象

I 貴社の情報システムのリスクの分析等についてお答え下さい

Q1. 情報システムの安全対策について、組織的にはどのように取り組んでいますか。

1	担当者グループが明確に定められている	232件	23.0%
2	必要に応じて担当者が割当てられている	273	27.0
3	特に担当は割当てられていない	359	35.5
4	大きなリスクはないので特に対応していない	146	14.5
計		1,010	100.0

Q2. システム部門としては、次のうちどれが現実的なリスクだととらえていますか。
次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	処理の遅れによるサービス低下	457	44.8
2	機密漏洩	441	43.2
3	過度の情報開示	57	5.6
4	不正確なデータによる信頼性の低下	481	47.2
5	ファイルの破壊や改ざん	477	46.8
6	不正データ入力	139	13.6
7	システムダウン	717	70.3
8	その他	9	0.9
計		1,020	—

Q3. リスク分析を実施したことがありますか。 Q4. リスク分析は誰が実施しましたか。(Q3の「1」について) (多重回答)

1	あ る	140	13.7
2	な い	883	86.3
計		1,023	100.0

1	情報システム部門の要員	118	84.3
2	関係部門を含めたプロジェクトチーム	15	10.7
3	外部のコンサルタント	15	10.7
4	その他	9	6.4
計		140	—

Q5. リスク分析では損害額を算定しましたか。
(Q3の「1」について)

1	し た	23	16.4
2	し ない	117	83.6
計		140	100.0

Q6. 算定のための基準を定めていますか。
(Q5の「1」について)

1	い る	10	43.5
2	い ない	13	56.5
計		23	100.0

Q7. リスク分析を実施する際の問題点は何だと思いますか。

1	確立された手法がない(又はわからない)	771	78.0
2	分析のためのデータが乏しい	313	31.6
3	分析の効果が測定できない	407	41.2
4	専門家がいらない	382	38.6
5	組織ができていない	336	34.0
6	その他	19	1.9
計		989	—

Q 8. 貴部門では、システム監査あるいは類似制度を受けられた（実施された）ことがありますか。（多重回答）

1	システム監査（独立した第三者による検査・評価および助言・勧告）を受けた	193	18.9
2	システム・コンサルティング（外部のコンサルティング業者の評価・提案）を受けた	45	4.4
3	その他	62	6.1
4	受けたことがない	747	73.2
計		1,021	—

II システム監査の実施についてお答え下さい（Q 8の「1」、「2」、「3」について）

II-1 [システム監査の実施体制について]

Q 9. システム監査人の知識や能力に対して、どのようにお感じになりましたか。

1	知識・能力をもっと身につけるべきだ	141	51.6
2	特にない	108	39.6
3	十分満足するレベルだった	24	8.8
計		273	100.0

Q 10. それはどのような技術ですか。次の中から最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。（Q 9の「1」について）

1	コンピュータ技術	45	31.7
2	業務知識	28	19.7
3	被監査部門とのコミュニケーション・スキル	13	9.2
4	全体的にレベルアップ	56	39.4
5	特にない	0	0.0
計		142	100.0

Q 11. システム監査実施体制に問題がありましたか。

1	あった	107	39.5
2	なかった	164	60.5
計		271	100.0

Q 12. どのような点に問題があったとお考えですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。（Q 11の「1」について）

1	システム監査の目的が不明瞭であった	36	34.3
2	システム監査人の権限および役割分担が不明確であった	38	36.2
3	現場（被監査部門）との調整が不十分であった	23	21.9
4	システム監査人の態度が良くなかった	1	1.0
5	システム監査人の対象業務に関する知識が不足していた	52	49.5
6	システム監査人のコンピュータ・システムに関する知識が不足していた	59	56.2
7	その他	13	12.4
計		105	—

Q 13. システム監査の実施過程においては、どのような点を充実させなければならないと思いますか。最も重要だと思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査計画	45	16.5
2	事前調査	58	21.2
3	実地調査	50	18.3
4	改善勧告	62	22.7
5	報告会	22	8.1
6	チェックリスト	30	11.0
7	その他	6	2.2
計		273	100.0

Q14. システム監査は誰が実施するのが効果的だと思いますか。最も効果的と思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査役（団体等は監事、自治体は監査委員）	16	5.8
2	内部の監査人	100	36.4
3	公認会計士	10	3.6
4	情報処理システム監査技術者試験合格者	45	16.4
5	情報システム部門の要員	9	3.3
6	外部のシステム監査コンサルタント	92	33.5
7	その他	3	1.1
計		275	100.0

II-2（実施方法・手続き）

Q15. 企画段階の監査で重視されたと思われる着眼点を次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	136	53.8
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	117	46.2
3	機密性（データの権限者以外への機密）	85	33.6
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	74	29.2
5	採算性（コスト面からの効率）	107	42.3
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	53	20.9
7	生産性（リソース面からの効率）	11	4.3
8	有効性（システム目標の達成度合）	103	40.7
計		253	—

Q16. 開発段階の監査で重視されたと思われる着眼点を次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	90	35.7
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	159	63.1
3	機密性（データの権限者以外への機密）	67	26.6
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	58	23.0
5	採算性（コスト面からの効率）	59	23.4
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	89	35.3
7	生産性（リソース面からの効率）	81	32.1
8	有効性（システム目標の達成度合）	69	27.4
計		252	—

Q17. 運用段階の監査で重視されたと思われる着眼点を次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	216	79.4
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	172	63.2
3	機密性（データの権限者以外への機密）	165	60.7
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	49	18.0
5	採算性（コスト面からの効率）	31	11.4
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	44	16.2
7	生産性（リソース面からの効率）	17	6.3
8	有効性（システム目標の達成度合）	56	20.6
計		272	—

Q18. コンピュータ犯罪、ヒューマンエラー、事故等の防止、並びに早期発見の観点から、システム監査において特に重視すべき点はどこだと思いますか。最も重要と思われる分野を各項目ごとに1つ選んで下さい。

分 野	コンピュータ犯罪防止		ヒューマンエラー防止		事 故 防 止		計	
データの入力プロセス	52	21.5	181	74.8	9	3.7	242	100.0
データ処理プロセス	37	17.1	97	44.9	82	38.0	216	100.0
情報出力プロセス	45	21.8	93	45.1	68	33.0	206	100.0
プログラム変更	45	19.7	159	69.4	25	10.9	229	100.0
オペレーション	21	9.1	166	72.2	43	18.7	230	100.0
情報保管（データ管理）	111	48.1	33	14.3	87	37.7	231	100.0
入退室（館）	161	73.9	15	6.9	42	19.3	218	100.0
システム開発	30	13.7	158	72.1	31	14.2	219	100.0
ハードウェア	3	1.3	10	4.5	211	94.2	224	100.0
ソフトウェア	32	14.9	117	54.4	66	30.7	215	100.0
通信回線	54	24.7	3	1.4	162	74.0	219	100.0

Q19. システム監査を効率的に実施するためには、どのようにしたらよいと思いますか。最も重要と思われるものを1つ選んで下さい。

1	監査技法の利用	17	6.2
2	情報システム部門の協力	53	19.3
3	情報システム部門自身による実施	14	5.1
4	実施手続きの標準化	88	32.1
5	システム監査人の能力アップ	52	19.0
6	外部の専門家の協力	19	6.9
7	トップ主導による実施	29	10.6
8	その他	2	0.7
	計	274	100.0

Q20. 監査結果について、システム監査人と貴部門の間で講評会が行われましたか。

1	十分検討を行った	52	19.3
2	一応、検討は行った	103	38.1
3	結果を伝達された	107	39.6
4	検討も伝達もまったくなかった	8	3.0
	計	270	100.0

Q21. システム監査の実施方法は妥当でしたか。

1	妥当と思う	130	48.1
2	妥当とは思えない	70	25.9
3	わからない	70	25.9
	計	270	100.0

Q22. どのような点に問題があったと思いますか。最も重要と思われるものを次の中から1つ選んで下さい。（Q21の「2」について）

1	監査目的が不明確であった	16	22.9
2	監査範囲の設定が不明確であった	16	22.9
3	監査内容、方法が現場に十分伝えられていなかった	6	8.6
4	監査方法が現場の状況を反映したものではなかった	19	27.1
5	その他	13	18.6
	計	70	100.0

Q23. システム監査の工数はアプリケーションの複雑さ等からみて妥当と思いますか。

1	システムを評価するためには、もっと工数をかけるべきだ	118	43.1
2	妥当だと思う	80	29.2
3	工数をかけすぎていると思う	9	3.3
4	わからない	63	23.0
5	その他	4	1.5
	計	274	100.0

Q24. システム監査を受けた時、現場の負荷は大きかったですか。

1	負荷はそれほど大きくはなかった	158	57.5
2	負荷は大きかったが、通常業務に支障をきたすほどではなかった	110	40.0
3	通常業務に支障をきたした	9	1.1
4	その他	4	1.5
計		275	100.0

Q25. どのような点に問題があったと思いますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。(Q24の「2」、「3」について)

1	システム監査計画に無理があった	5	4.8
2	システム監査工程が現場を無視したものであった	3	2.9
3	システム監査人へ提出すべき資料が整理されていなかった	65	62.5
4	資料提出や意見聴取の指示が不明確であった	24	23.1
5	資料要求が多すぎる	28	26.9
6	システム監査人の能力不足のため資料や説明がなかなか理解されなかった	27	26.0
7	監査プログラム等の仕組みなどのシステム変更が生じた	4	3.8
8	立ち入り検査等により業務が度々中断された	20	19.2
9	その他	7	6.7
計		104	—

II-3 [監査報告書]

Q26. 改善勧告を受けましたか。

1	受けた	211	77.9
2	受けない	60	22.1
計		271	100.0

Q27. 改善勧告を実施しましたか。

1	実施した	98	46.7
2	実施していない	11	5.2
3	一部実施した	101	48.1
計		210	100.0

Q28. 報告書の指摘事項や改善勧告の内容についてどのように感じましたか。
次の中から最も感じたことを1つ選んで下さい。

1	的を得ていると感じた	18	7.1
2	妥当だと感じた	125	49.2
3	全体として迫りに欠ける	55	21.7
4	システム部門の状況が考慮されていない	40	15.7
5	納得のいかないことが多い	3	1.2
6	その他	13	5.1
計		254	100.0

II-4 [実施効果]

Q29. システム監査は効果があったと思いますか。

1	十分に効果があった	30	11.0
2	多少効果があった	138	50.5
3	なんともいえない	69	25.3
4	あまり効果がなかった	25	9.2
5	まったく効果がなかった	7	2.6
6	わからない	4	1.5
計		273	100.0

Q30. どのような点で最も改善が図れたと思いますか。
次の中から最も改善が図れた業務を1つ選んで下さい。
(Q29の「1」、「2」について)

1	システムの企画業務	13	7.7
2	システムの開発業務	36	21.4
3	システムの運用業務	110	65.5
4	システムの外部委託業務	1	0.6
5	その他	8	4.8
計		168	100.0

Q31. システム監査の充実によって最も効果が上がったと思われるのはどのような分野ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。(Q29の「1」、「2」について)

1	コンピュータ犯罪対策	42	25.5
2	ヒューマンエラー対策	111	67.3
3	障害対策	69	41.8
4	適時性	25	15.2
5	採算性	11	6.7
6	生産性	9	5.5
7	有効性	30	18.2
計		165	—

Q32. システム監査はどのような点に効果があったと思いますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	システムに起因する事故が未然に防止できた	38	15.6
2	リスク対策をどこまで考慮すればよいか明らかになった	73	29.9
3	担当者がリスクを考慮しながら業務を実行するようになった	104	42.6
4	システム部門に対する過大な要求がなくなった	9	3.7
5	システムの信頼性向上対策のレベルが明らかになった	100	41.0
6	システムの有効利用が促進された	29	11.9
7	有効なシステムの開発設計が可能になった	20	8.2
8	その他	33	13.5
計		244	—

Q33. システム監査はどのような点に問題があったと思いますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	具体的な改善案が提示されなかった	35	14.1
2	改善案は提示されたが、現場を無視した実現不可能なものであった	21	8.5
3	現状の業務の分析が不十分であった	83	33.5
4	新しい視点からのリスクの洗い出しが行われていなかった	49	19.8
5	問題点の指摘が不十分であった	38	15.3
6	個々の問題点の指摘にとどまり、リスクの評価が十分に行われなかった	110	44.4
7	現時点では効果の判断を行う材料がみつけない	83	33.5
8	システム改善のフォローアップ体制が整備されていなかった	50	20.2
9	その他	7	2.8
計		248	—

Ⅲ システム監査を受けたことがない事業体のみお答え下さい (Q8の「4」について)

Ⅲ-1 [未実施の理由について]

Q34. 現在、システム監査の必要性を認識していますか。

1	いる	329	44.2
2	いない	84	11.3
3	どちらともいえない	331	44.5
計		744	100.0

Q35. システム監査が実施されていない理由は何だと思いますか。次の中から3つ以内でお答え下さい。

1	システム監査について、トップマネジメントの認識が欠如している	131	17.7
2	システム監査の実施のためのコンセンサス、組織風土が十分に育っていない	343	46.2
3	システム監査の実施よりもシステム化推進そのものに力点がある	504	67.9
4	システム監査を実施する担当者（部門）の確保が難しい	376	50.7
5	システム監査の方法、制度、手続きなどが十分でない	331	44.6
6	その他	22	3.0
計		742	—

Q36. 必要性を認識していない理由は何ですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。（Q34の「2」について）

1	従前からの内部監部門および外部監査で十分である	4	10.0
2	情報システムの企画、開発における事前的な評価方法を導入しているので十分である	2	5.0
3	情報システム部門自体の運用管理体制の整備で十分である	19	47.5
4	情報システムにソフト的に組込まれている信頼、安全、効率確保の機能で十分である	7	17.5
5	システム監査を必要とするほど情報システムの重要性が高くない	15	37.5
6	システム監査を必要とするほど情報システムへのリスクがない	15	37.5
7	システム監査とは何かよくわからない	12	30.0
8	その他	2	5.0
計		40	—

III-2（実施可能性について）

Q37. 今後は、システム監査の導入についてどのようにお考えですか。

1	現在、システム監査の導入を計画中	29	3.9
2	2～3年以内には導入の予定	83	11.2
3	当面導入の予定はない	566	76.2
4	将来とも導入の予定はない	34	4.6
5	その他	31	4.2
計		743	100.0

Q38. どのような体制で着手するのが妥当だと思いますか。最も妥当と思うものを1つ選んで下さい。（Q37の「1」、「2」について）

1	内部監査部門型（監査部、考査部等が実施する）	29	28.7
2	コンサルタント委託型（外部のシステム監査コンサルタントへ委託する）	14	13.9
3	部門監査型（情報システム部門で実施する）	28	27.7
4	指名方式（トップから指名された者がシステム監査人となり実施する）	7	6.9
5	委員会方式（システム監査委員会を設置して実施する）	13	12.9
6	チームアプローチ（システム監査プロジェクトチームを編成して実施する）	8	7.9
7	その他	2	2.0
計		101	100.0

Q39. 特に、どのような観点からシステム監査を進められるのが望ましいですか。次の中から3つ以内でお答え下さい。
 (Q37の「1」、「2」について)

1	安全性（システムの物理的安全性／不正防止）	62	60.8
2	信頼性（ハードウェア／ソフトウェアの正確さに基づく信頼性）	75	73.5
3	機密性（データの権限者以外への機密）	36	35.3
4	準拠性（法律、条例、規則等への準拠）	17	16.7
5	採算性（コスト面からの効率）	38	37.3
6	適時性（開発、導入、アウトプット作成等のタイミング）	13	12.7
7	生産性（リソース面からの効率）	10	9.8
8	有効性（システム目標の達成度合）	41	40.2
計		102	—

Q40. システム開発ライフサイクルの中で、特にどの段階の監査を要望されますか。

1	企画段階	205	31.9
2	開発段階	151	23.5
3	運用段階	318	49.5
計		643	—



禁無断転載

平成元年3月発行

発行所 財団法人 日本情報処理開発協会
東京都港区芝公園3丁目5番8号
機械振興会館内
☎ (432)9387

印刷所 株式会社 東京 矢野企画
東京都港区芝大門2丁目1番18号
GSハイム 209
☎ (459)0831

